

1.4 今年度のまとめ

学習指導要領の趣旨を実現するための学習評価改善の基本的な方向性を踏まえると、「指導と評価の一体化」が重要視されていることが分かります。そこで昨年度、当研究所では評価の中でも具体的な方法について難しさが挙げられていた「主体的に学習に取り組む態度」について、評価ツールとして「OPPA」を取り上げ、研究を行いました。その結果、改めて評価には「① 学習目標の達成度を計るための明確な評価基準を設定すること」「② ①について、児童生徒と共通理解を図ること」が必要であることを確認しました。

これを受け、より妥当性・信頼性のある学習評価から授業改善を進めることを目指して、研究主題を『指導と評価の一体化～ルーブリックを活用した授業改善～』とし、次の2つの視点で研究を進めることとしました。

研究内容 1

「指導と評価の一体化」を実現するためのルーブリックを活用した授業改善に関する調査・分析

研究内容 2

研究内容 1 に基づく授業の研究とその改善

今年度は、授業改善のために「指導と評価の一体化」をどのように推進していくかを、表を用いて学習目標の達成度を測定する評価ツール「ルーブリック」に着目して調査・研究を進めました。所員は、ルーブリックの概念や効果的な活用方法、明確な評価基準の設定、授業改善への有効性などについて実践を重ねながら研修を進めてきました。

渡島教育研究所研修講座（令和5年7月27日 七飯町文化センター）では、研究主題設定の理由や研究の内容と構想について提言し、ルーブリックについての説明と所員の実践を紹介しました。絶対評価の判断基準表であるルーブリックを活用することで、児童生徒一人一人の学習状況を確実に見取り指導の改善に生かすことが期待できます。その後の協議・交流の場面では、参加者の皆様が実際にルーブリックを作成することで、つくり方や使い方のイメージを具体化することに取り組みました。また、参加者同士で作成したルーブリックについて交流することで、評価基準・評価規準について見直しを図るなど、研修を深めることができました。講演では、北海道教育庁渡島教育局教育支援課義務教育指導班主査 松本 了祐 様より、「学習評価と今日的な教育課題について」と題して、お話しいただきました。学習評価の基本的な考え方から、その役割など、指導と評価の具体を交えながら、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価についての御示唆をいただきました。研修後のアンケートでは、「評価基準からルーブリックをつくる方法がとてわかりやすく、勉強になった」などの感想が多く、一定の成果を上げることができました。

4年ぶりに実施した渡島教育研究所授業公開・研修講座（令和5年11月14日 七飯町立大中山小学校）では、『「指導と評価の一体化」の実現に向けた授業改善と検証』をテーマに、小学校体育科6年生「跳び箱運動」の授業を公開し、協議・演習を行いました。本時のルーブリックを基に参加者の皆様に学習評価を体験していただき、交流を通して

ループリックの改善案について協議することで、児童を見取る教師にとってのループリック活用の意義について研修を深めました。参加者からは「ループリックがあることで、子供も教師も基準が明確になり、目標をもって取り組める」「メリットやデメリットを協議することで、よりよい指導、評価等を考えることができた」などの御意見をいただきました。

渡島市町教育研究所員共同研修講座（令和6年1月11日 大中山コモン）では、本所員より、ループリックを活用した授業改善について改めて説明を行いました。また、所員が継続して実践・研修を進めてきた成果・課題に加えて、鈴木 秀俊 教諭（森町立砂原中学校）からも「ループリックのメリット、デメリット」について実践発表をいただきました。その後、これらの提言や発表を基に、参加者によるループリック作成の演習を行い、協議・交流を行うことで、より研修を深めることができました。講演では、「今日的な教育課題～授業改善に向けて～」と題して、北海道教育庁渡島教育局教育支援課義務教育指導班指導主事 三笠 裕也 様、吉田 智宏 様より、管内の状況や今後の授業改善等について、データや具体例を示してお話をいただきました。改めて、児童生徒一人一人に求められる資質・能力を育むため、学習状況を確実に見取り指導の改善に生かすことについて認識を深める機会となりました。参加者からは、「指導と評価の一体化には、ループリックが有効であることが分かった」「作業に時間はかかるが、少しずつでもつくっていききたい」などの感想をいただきました。また、評価にあたり、「生徒としっかりと共有しておくことが必要であることを学んだ」との御感想もいただきました。

今年度の3回の研修講座は、指導と評価を一体化させるための有効なツールとして「ループリック」を用いたこと、そのメリットとデメリットを体験的に研修できるようなループリックを作成する演習を設定するなどしたこと、有意義なものにできたとおさえています。また、「渡島の先生や情報そして学校をつなげる」を合い言葉に当研究所の取組をホームページで紹介することや、渡島所報の発行も進めました。年度を通じて行った様々な取組が渡島の先生方の指導力や子供たちの学習意欲の向上につながっていくものと確信しています。次年度もこれまでの取組を継承・発展させつつ、現場のニーズに応えられる実践的な研究を推進したいと考えています。

当研究所では、渡島管内の先生方の指導案やワークシート、実践された資料などを収集し、共有財産として活用していけるよう、渡島ネットワークの管理・充実を進めております。先生方の日々の実践に役立つ情報を共有し積極的に提供していくことで、管内教育の質の向上に寄与していきたいと考えています。また、渡島の各教育研究会と連携し、管内の各教科等サークルでの専門的な資質の向上について、研修・情報共有推進の一助も担っております。今後も活動の幅を広げながら渡島教育の充実・発展に努めてまいります。

終わりに、研究の推進にあたって御指導・御助言をいただいた北海道教育庁渡島教育局教育支援課義務教育指導班をはじめ、関係機関及び管内各教育研究所の皆様にご心より感謝申し上げます。また、研修講座に御参加いただき、協議等を通じ、研究を深めていただいた皆様にお礼を申し上げます。